

# 公益社団法人 日本青年会議所 九州地区協議会

## 2019年度 会長予定者意見書（参考資料）

一般社団法人 大分青年会議所  
中島 土

九州の進歩と繁栄の礎とならん！  
～常識を打ち破り、持続可能な九州とJCを創ろう～

### 【世界の中の日本】

過度なグローバリズムの進展、その反動によって急伸するナショナリズム。資本主義と共産主義の相克から時代が移り、今、世界は、この2つの価値観の衝突によって激動の時代を迎えています。

第二次世界大戦後の枠組みの中で、我が国は米国と価値観を共にし、世界史に残る急速な経済発展を遂げることができましたが、占領政策によって、日本人としての誇りが失われ、約70年もの間、米国に安全保障を依存し続け、我が国は精神的にも物理的にも真の独立を果たすことができていません。一方、現在の米国は、国内の経済格差が拡大し、保護主義が台頭した結果、安全保障と経済のアライアンスをはじめ、我が国と米国は質的転換を迫られています。

他方、永遠の隣国である中国は、既に世界第二位の経済大国へと躍進し、さらに、2030年頃には世界第一位の経済大国になるとの予測もある中、政治・経済における世界への影響力が極めて高くなっていますが、我が国との間には、領土・歴史認識問題をはじめ解決すべき課題が山積しています。また、アジア全域に目を向けると、2050年には世界経済のうち、その過半の富がアジアに集中すると見込まれています。

しかし、我が国の現状は、以前より予測されていたにも関わらず、超高齢化と少子化による急激な人口減少社会に対応した社会システムの再構築が遅れており、2050年には、人口が9500万人まで減少するとされ、また、PwC（プライスウォーターハウスクーパース）の調査によれば、GDPにおいて、インドネシアに後れを取り世界第7位になると予測されています。

上記の通り、同盟国である米国との関係が質的転換を迎え、また、中長期的にアジアが世界の中で躍進する中、相対的にも日本の国力が低下する恐れがあり、私たちは、精神・経済の両面において真の自主自立国家としての日本を、持続可能な形で次世代に残さなければなりません。

その、新しい日本を創る力とポテンシャルをもつ地域こそが、私たちが住まう「九州」

なのです。

### 【何故、九州なのか】

歴史を紐解くと、記紀神話によれば、天孫の邇邇藝命（ニニギノミコト）が、天照大神の神勅を受けて葦原の中つ国を治めるために高天原から日向国の高千穂峰へ天降ったことが、この日本の起源とされています。

弥生時代には、福岡県博多地方に「奴国」が存在したとされ、倭の奴国の王が後漢に遣使を送り、志賀島で発見された「漢委奴国王」の金印を光武帝から授かったことから、当時、福岡地方が日本国を代表していたことがわかります。

時を経て、室町時代には、ポルトガル人を乗せた中国船が種子島に漂着し鉄砲が伝来したことで技術革新が進み、また、フランシスコ・ザビエルが鹿児島に上陸し、キリスト教を伝来したことで、西洋の文化や医療技術が同時に流入し、日本人の思想形成にも大きな影響を与えました。さらに、本年は明治維新から150年の節目を迎えていますが、欧米列強のアジア進出にいち早く危機感を抱き、日本の近代化に力を尽くした結果、その後長きにわたって九州の多方面から多くの偉人を輩出し、近代を創ってきました。

これは、九州が日本の西端に位置する東アジアとの地理的近接性が大きな要因としてあり、それによって、いにしえより九州がアジアをはじめ世界との交流を重ね、多種多様な文化と気質を育んできたからと考えます。歴史の大流に照らし合わせれば、九州が日本の歴史と民俗をかたち創ってきたのです。今こそ、九州に住まう次世代に責任をもつ私たち JAYCEEこそが、持続可能な九州を創らんとする気概と、新しい時代を生き抜く戦略をもつべきなのです。

### 【九州 JAYCEEの志】

我が国の敗戦後、時代が混迷を極める1949年9月3日、祖国の未来を憂う48名の青年が「新日本の再建は我々青年の仕事である」と宣言、東京青年商工会議所を設立し我が国における青年会議所運動の灯がともされました。そして、我が国が主権を取り戻し、戦後復興を本格的に推し進める中、1953年6月23日から27日の5日間にかけて、九州北部地方を中心に集中豪雨災害が発災。死者・行方不明者1001名、浸水家屋45万棟、被災者数約100万人を超える甚大な被害をもたらし、これに対し、九州内各地の青年会議所が故郷の復興に尽力しました。時を同じくし、九州各地でもJCが生まれ、大水害からの復興と、日本経済の発展に寄与するためには、単一の地域だけでなく広域に連携して取り組む必要があることから、九州地区協議会が生まれました。

### 【九州こそが日本をリードする】

私は、前述の通り、世界の中の日本と九州の位置付け、そして、九州の歴史的背景、さらに、九州地区協議会の起源をまず理解する事が、九州 JAYCEEとしてのスタートラ

インだと考えます。

グローバル化やインターネットをはじめとする情報通信技術の進展に伴い、ヒト・モノ・カネ・情報や、様々な文化と価値観が国境を越えて激しく流動し、各国や各自治体が相互に依存度を高める中、もはや各国、各地域が単独の発展を望むことは不可能です。私たち九州 J A Y C E E が、世界を俯瞰する力を持ち、その上で世界の中の九州というものを位置付けなければ、持続可能な九州を創造することはできません。

日本と九州が繁栄の分岐点にある今、時代に即した運動を展開し続けてきた私たち九州地区協議会こそが、九州がより良い変化へと向かう「進歩」と、住まう人々が生き生きと住み暮らす「繁栄」、つまり、私たちが目指す明るい豊かな社会の礎とならねばなりません。A S P A C 鹿児島大会、全国大会宮崎大会を通して得ることができた九州 J A Y C E E の高まるムーブメントをさらに発展させ、明るい豊かな九州を創造するために、そして、九州地区内 7 8 L O M の一層の発展のために、約 4 0 0 0 名の九州 J A Y C E E の英知と勇気と情熱を結集させ、新しい時代に即した運動・活動を力強く展開します。

### 【SDG s を活用した地方創生】

国連は、2030年までに達成すべき17のゴールとして持続可能な開発目標（SDG s）を定めました。サステナブルな世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成され、発展途上国のみならず先進国とともに取り組む目標となっています。

一見、SDG s は、地方の政策とは縁遠い様に見られがちですが、経済・社会・環境の3側面における統合的な取り組みを推進するものであり、これを政策に取り込むことによって、世界とつながりをもった、より幅広い運動が展開できます。J C が実施する持続可能な故郷を創る事業は、全てがSDG s に関わっていると見え、私たちは全ての事業立案において、SDG s を意識し関連付ける習慣をつけることによって、SDG s をより一層自らのものとしなければなりません。

また、世界には2500兆円とも言われるESG（環境・社会・ガバナンス）の投資機会が存在しますが、G7において日本は最下位のESG評価であり、持続可能な投資先として世界からまだ認められていないことを表す一方、この超巨大マーケットにおいて我が国には十分なポテンシャルがあることを示しているとも言えます。他方、世界においてSDG s を達成するためには、年間500兆円を超える投資が必要と言われており、今後、各国で民間のESG資金の獲得競争が起きると考えられます。

さらに、2019年7月頃を目途に、福岡市においてG20財務相・中央銀行総裁会議が開催される絶好の機会を捉え、常に先駆者として、世界とのつながりによって時代を創ってきた九州から、そして、持続可能なインパクトの創造に向けあらゆるセクターをつなげて来たJ C こそが、産官学金労言と協働し、九州から持続可能な成長へのコミットメントを打ち出し、世界の投資資金を九州へ呼び込み、SDG s ファイナンス、ESG投資を活用した、広域の地方創生モデルを構築すべきと考えます。

### 【持続可能な九州を創る】

九州の高速道路網は、東西南北に県庁所在都市を連結していますが、東九州地域、また、九州中部の横軸のつながりをはじめ、各地にミッシングリンクが存在しており、依然として交通ネットワークにおける東西の格差が存在しています。

私たちの記憶に新しい、昨年7月に福岡と大分を中心に甚大な被害をもたらした「平成29年7月九州北部豪雨」、そして、先の「平成30年7月豪雨」からも痛感する通り、九州は自然が豊かな反面、災害多発地域であることを踏まえ、頻発化、激甚化、広域化する大規模災害に対して、発災後の避難、救援物資の輸送において命を支える交通インフラの面からも災害対策を強化する必要があると考えます。合わせて、発災時には、地区とブロックがリーダーシップを発揮し、行政や社会福祉協議会をはじめとする各セクターをつなげ、スピード感ある復旧復興活動に力を尽くしたいと考えます。

また、九州は、インバウンド数において毎年約30%の伸びを示しており、2016年には九州での観光客の消費額は約2兆4000億円にのぼり、さらに、九州地方知事会と経済団体が構成する九州地域戦略会議では、2023年にはそれを4兆円へ拡大する目標を掲げています。

そのような中、2019年にはラグビーワールドカップが福岡県、熊本県、大分県にて開催されることとなり、また、女子ハンドボール世界大会が熊本県で開催され、他方、「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群が世界文化遺産に登録されたことに続き、「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」も登録されました。

これらの絶好の機会を踏まえ、今後5年間で、新たに1兆6000億円の市場が生まれる可能性を考えると、点在する観光資源を広域的に活用できる九州の縦横に巡らされた交通インフラは、定住人口の減少による経済停滞を交流人口の増加によって活性化させる、効果的な地方創生の鍵となり得ます。

一方、国土交通省が策定した「国土のグランドデザイン2050」では、人口が減少し続ける中、高次の都市機能を維持するためにコンパクト・ネットワークシティの構築を目指す、つまり、地方都市を戦略的に「縮める」政策を進めるところ、短期的ファクターを基に、際限なくインフラを拡大し続ければ、中長期的には老朽化したインフラの維持管理が困難となるだけでなく、負の遺産を後世に遺すこととなる恐れがあります。

この様に、人口減少時代における、長期的視野に基づく戦略的なインフラ整備は必要不可欠であり、広域の視点をもつ九州地区協議会として、コンパクト・ネットワークシティへの流れに合わせた街のあり方の模索とインフラの充実に力を尽くすべきと考えます。

### 【持続可能なJCを創る】

全国的に、何故、会員数が減少し続けているのでしょうか。それは、様々な調査からも明らかになっていますが、ICTが発達したこの10年で日本全体において若者の思考傾向が変わっているからと私は考えます。良い悪いではなく、プロセスよりも結果を重視す

る、面倒な人間関係は極力避け小さなコミュニティーの中に安住する、そういう思考をもった若者が全国的に増加していることから、J Cの様な深い人間関係の極みである団体に所属しづらくなってきているのではないのでしょうか。もちろん、その様な若者をたくましく強化していくこともJ Cの使命であると考えますが、中長期的にも輝くJ Cを目指し、持続可能なあるべき組織の姿を模索し、新しい思考と時代に合わせて、バランス良く多様性に溢れた組織の形へと進化させていくことも必要なのではないのでしょうか。

私たちは引き続き、J Cならではの深い人間関係の構築に重きを置いたチームビルディングを大切にしながらも、広域に連携する九州地区協議会こそが、ICTを活用し、役員が各地から充実した会議、運動を構築できるモデルケースとなり、また、LOMをつなげる事業を実験的に生み出し、離島にあるLOMにも活用いただけるパッケージを構築することで、九州地区内78LOMに貢献する協議会としての役割を、引き続き果たして参ります。

また、私たちは、当然にみな社業をもち、社会奉仕との両立を実践する志高き青年です。JAYCEEは社会への奉仕を自らの喜びとし、J Cはその実践を通じて自らの人間性を高める「人間道場」であると私は考えます。

一方、JCIが、個人の機会、地域の機会、国際の機会、ビジネスの機会の4つの機会を定めるにも関わらず、そもそもの社業にJ Cのネットワークを活かしきれていない面も否めないのではないのでしょうか。これでは、あまりにもったいない。現在、日本青年会議所においても、このビジネスの機会を定款に盛り込むべく、検討が進められています。

私は、これだけ多様な業種が集まるJ Cのネットワークを、現役のうちに活かし、ビジネスの輪を広げ社業を発展させ、そして、そこから生まれるエネルギーと利益を、J Cを通じて社会に還元することが必要なのではないかと考えます。

過去の成功事例にとらわれることなく、先人への敬意を胸に、守るべきものは守り、しかし、勇気と知恵をもって変えるべきは変え、新しいJ Cのあり方について実験を繰り返し、ロールモデルを九州地区内78LOMへ、そして、全国へ向けて発信し、社業とJ Cの進歩と繁栄の礎とします。

## 【九州の進歩と繁栄の礎とならん！】

「人生二度なし。」

この人生は、二度と再び繰り返し得ないものであるという真理に直面する時、私は命に対して思いを深くします。

私は何のために生まれたのか、何をなすべきなのか。  
ずっと考え続けてきました。

仕事に勤しみ、結婚し、長女を授かり、小さな幸せを一つひとつ積み重ねる中、OBである父に勧められ青年会議所の門を叩きました。当初の目的は、同じ故郷に住む友人を作ることでした。青年会議所で人脈を拡げ、自分自身の仕事に役立てようと考えていました。

それは全て自分自身のためでした。

入会して1年程経ったある日、若手JAYCEEの育成を目的としたアカデミー事業に参加しました。

それは、「JAYCEEライフをより有意義なものにするためには」と題された、ある先輩による講演でした。

その中で、先輩は「青年会議所は、小手先の社会変化を生み出すものではない。市民の意識を変革し、社会の根本を変えていくのだ。JC運動とは、前人樹を植え、後人涼を得るもの。君達はその前人となるのだ。」と、若きJAYCEEに熱く説いたのです。

心が震えました。何のために生まれたのか、何をなすべきなのか。考え続けてきた問いに答えが出たのです。

未来に生きる後人へ、明るい豊かな日本をつなぐために、私は前人となり樹を植えよう。育ててくれた九州の進歩と繁栄のために、私はその礎となろう。それこそが、私のなすべき使命だと確信したのです。

私は、歴史が証明する様に、九州がもつ力を信じます。

九州に住まうJAYCEEこそが、青年の意識と行動を、自利から利他へ変革すると信じます。そして、集う同志のエネルギーこそが、九州から我が国の進歩と繁栄を創ると信じます。

今こそ、二度ない人生の使命を自覚し、我ら互いに手を取り合い、後人のために今こそ樹を植えようではありませんか。

持続可能な九州とJCを創るために、変化を恐れず既存の常識にJCらしく挑戦しようではありませんか。

我ら、九州の進歩と繁栄の礎とならん！